



令和7年度 第36回

全国グループホーム等研修会

東北大会

in やまがた

「自分らしい生活を築くために」

～グループホームの可能性 未来に向けて～

令和7年

期日

9月18日(木)・19日(金)

会場

山形テルサ(山形市双葉町1-2-3)



主催

公益財団法人

日本知的障害者福祉協会 地域支援部会

東北地区知的障害者福祉協会

山形県知的障害者福祉協会

令和7年度 第36回全国グループホーム等研修会

＜東北地区大会 in やまがた＞ 開催要項

期 日 令和7年9月18日（木）・19日（金）

会 場 山形テルサ（山形県山形市双葉町一丁目2番3号）

参 加 費 会員13,200円（12,000円＋税10%）
一般18,700円（17,000円＋税10%）

定 員 500名

大会日程

1日目		2日目	
12:00	受付	8:30	受付
12:45～13:00	オープニングセレモニー	9:00～12:00	分科会（4分科会）
13:10～13:20	開会式	12:00	閉会
13:30～14:30	行政説明		
14:40～15:40	基調講演		
15:50～17:10	シンポジウム		
17:20～17:30	引継式		
17:30	閉会		

主 催 公益財団法人日本知的障害者福祉協会 地域支援部会
東北地区知的障害者福祉協会
山形県知的障害者福祉協会

問い合わせ先 【大会事務局】山形県知的障害者福祉協会（担当：八柳）
〒990-0033 山形県山形市諏訪町一丁目2番7号
社会福祉法人愛泉会 内
Mail : yama.fukukyo@aurora.ocn.ne.jp
TEL 023-664-0256 FAX 023-616-5325

申 込 先 名鉄観光サービス株式会社 東北営業本部
総合旅行業務取扱管理者 鎌田英人/植松正樹
〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3 JMFビル仙台01 6階
Mail : chifuku-yamagata@mwt.co.jp
TEL 022-263-1371 FAX 022-225-8774

【大会テーマ】 『自分らしい生活を築くために』

～グループホームの可能性 未来に向けて～

【大会趣旨】

世界人権宣言の第1条では「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である」と宣言されています。また、障害者総合支援法第1条の基本理念では『障害のある人がどこで誰と生活するのか』選択する機会の確保が示されています。

障害のある人の地域支援を支えてきたグループホームと居宅介護は、多様な支援のあり方について、その時々の課題を踏まえながら議論され、報酬改定も含めて繰り返し見直されてきました。また、施設入所者の地域生活移行についても目標に掲げられてきましたが、現在グループホーム等地域で生活されている方々は、ご本人の望む生活が実現できているのでしょうか。グループホームが制度化されて35年以上が経ちましたが、障害のある人の地域での暮らしはどれだけ変わったのでしょうか。「どこで」「誰と」「どのように」暮らしたいのか、きちんと想いをていねいに汲み取ることができているのでしょうか。私たち支援者に求められていることや果たすべき課題は多くあります。

障害のある人、1人ひとりの『自分らしい生活を送りたい』という想いを大切に、一度原点に立ち戻り、地域支援のこれからの未来に向けて、全国の皆さんと共に考え共に学べる場にしたいと思います。

9月18日（木） 1日目

【行政説明】 テーマ「地域生活支援に係る国の施策の動向について」

講師：厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部

障害福祉課 地域生活・発達障害者支援室 室長補佐 馬場 和弘 氏

【基調講演】 テーマ「自分らしい生活を送ってもらうために」～私たちの支援のあり方を見つめなおす～

講師：長野県 社会福祉法人高水福祉会理事長

日本知的障害者福祉協会権利擁護委員会副委員長 野口 直樹 氏

【シンポジウム】

「障がい者1人ひとりの“生きたい暮らし”を地域で叶える」

趣 旨：このたび、私たちは「障がい者1人ひとりの“生きたい暮らし”を地域で叶える」というテーマのもと、各団体のリーダーの皆さまにお話を伺いたいと考えています。障害のある方が地域で自分らしく生きるためには、画一的な支援ではなく、その人が望む暮らしに寄り添う柔軟で多様な支援が必要です。支援の現場でリーダーとして実践されている皆さまの視点から、「生きたい暮らし」とは何か、またそれを地域で実現するために何が必要か、率直な声をお聞かせいただきたいと思います。各団体の取り組みや課題、工夫、これからの展望なども含めて、現場のリアルを共有していただければ幸いです。この企画は、地域社会全体で障がい者の希望を支える未来を考える第一歩として、多くの方に届けていきたいと考えています。

シンポジスト

- ・特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク 理事長
鹿児島県 社会福祉法人ゆうかり 理事長 水流 源彦 氏
- ・障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会 代表
千葉県 社会福祉法人ロザリオの聖母会 ナザレの家あさひ所長 荒井 隆一 氏
- ・特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会 代表理事
神奈川県 社会福祉法人唐池学園 貴志園 園長 富岡 貴生 氏

コーディネーター

- ・公益財団法人日本知的障害者福祉協会 地域支援部会 部会長
香川県 社会福祉法人もえぎの会 業務執行理事 石本 伸也 氏

アドバイザー

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部障害福祉課
地域生活・発達障害者支援室 室長補佐 馬場 和弘 氏

9月19日（金） 2日目

分 科 会 1	タイトル	「重度障がい者の地域生活について」 ～障がいが重くても“いつまでもここで住みたい”を叶えるために～
	目 的	全国的に、グループホームで生活されている方々の重度化や、重度障がい者の施設入所からの地域移行は喫緊の課題とされています。重度障がい者に対応する支援体制の構築や、職員の支援力向上の課題に日々苦慮されている事業所も多いのではないかと思います。この分科会では、先駆的な取り組みを展開しているグループホームの実践を共有し、重度の障がいがあっても、本人の望む暮らしが続けられるための支援を参加者全員で考えていきたいと思っています。
	内 容	「シンポジウム」180分 コーディネーター：岩手県 社会福祉法人いきいき牧場 クローバーの家管理者 山本 円 氏（東北地区委員） ・実践報告 各30分 ①大阪府 社会福祉法人北摂杉の子会 地域生活支援部レジデンスなさはらもとまち 辻本 紗弥 氏 ②北海道 社会福祉法人はるにれの里 共同生活援助やすらぎ 八木沢 徹 氏 ③福岡県 福岡市社会福祉事業団 障がい者地域生活行動支援センター「か〜む」 森口 哲也 氏 ～休憩15分～ ・討論会 60分 ・質疑応答 10分

分 科 会 2	タイトル	「地域支援における災害への備えと事業継続」
	目 的	毎年のように発生する大規模な自然災害。全国各地どこで発生するかわからない状況において、障がいのある方の地域生活を支えていくためには、あらゆる想定をして災害に備える必要があります。災害発生時には被害を最小限に抑え、早期に復旧し事業を継続し、利用者の生活を安定させること、さらには地域住民の要配慮者への支援や福祉避難所での活動など、私たち福祉従事者には多くのことが求められています。この分科会では、これまでの自然災害の教訓を生かすために、被災地で起きていたことや災害時の対応などについて共有し、今後の災害時における地域支援について考えていきます。
分 科 会 3	内 容	1) 講演90分 各45分 「災害時における地域支援」 ～東日本大震災、熊本地震から振り返る地域支援～ 講演Ⅰ 熊本県 社会福祉法人菊愛会 理事長 最上太一郎 氏 講演Ⅱ 岩手県 社会福祉法人江刺寿生会 ワークセンターわかくさ 施設長 久保田 博 氏 ～休憩 15分～ 2) 鼎談75分 コーディネーター 神奈川県 社会福祉法人星谷会 理事長 河原 雄一 氏 「地域と災害対応」～災害に備えるために～ ・社会福祉法人菊愛会 理事長 最上太一郎 氏 ・社会福祉法人社会福祉法人江刺寿生会ワークセンターわかくさ 施設長 久保田 博 氏
	タイトル	「その街に暮らすということ」 ～地域住民との交流や連携を築くために～
分 科 会 3	目 的	グループホームは個々の生活の場を支えるサービスのため、運営が閉鎖的になってしまいうこと、また、実績や経験が少ない事業者の参入等により、障害特性を踏まえた支援が適切に提供されていないといった支援の質の低下が懸念されています。この分科会では、令和7年度より地域連携推進会議の設置が義務化されたことを踏まえ、グループホームで暮らす1人ひとりの思いに寄り添うために、改めて地域との連携について考えていきます。
	内 容	「講演」60分 講師：東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科教授 竹之内章代 氏 ～休憩15分～ 「シンポジウム」105分 コーディネーター：山梨県 社会福祉法人三富福祉会 サポートセンターハロハロ武番館所長 服部 敏寛 氏（関東地区委員） ・実践報告 各20分 ①山梨県 社会福祉法人あそびじゅく 共同生活援助事業所 MARIKO 寮管理者 中村 洋人 氏 ②山形県 社会福祉法人愛泉会 グループホーム支援センターなかやま所長 寺西 朋宏 氏 ・討論会 60分 ・質疑応答 5分

分 科 会 4	タイトル	「利用者の豊かな生活を支える地域サービスの連携とは」
	目 的	地域で生活されている障がいのある方が自分の夢や希望を叶えられる環境にあり、1人ひとりが楽しく充実した生活を送るために、共同生活援助事業、居宅介護事業、相談支援事業は欠かせないサービスです。しかし郡部の小さな市町村では「利用者数が少ない」などの理由で各種事業が充実していない地域もあり、選べるサービスの地域間格差が課題ともなっています。 本分科会では、利用者の皆さんが住み慣れた地域で、居住、活動、余暇それぞれにサポートを受け豊かな生活を送ることが出来るよう、地域でのサービス連携の実際と課題を参加者全員で考えていきたいと思います。
	内 容	1) 講演60分 「快適な地域生活のために～全国で見てきたグループホーム～」 愛知県 社会福祉法人無門福祉会 前日本知的障害者福祉協会編集企画出版委員長 阪田 征彦 氏 ～休憩15分～ 2) 実践報告 各20分 ①「相談支援を中心とした連携推進（仮）」 宮城県 社会福祉法人みんなの輪 るーぶ美里センター長 吉城麻衣子 氏 ②「居宅支援を中心とした連携推進（仮）」 北海道 社会福祉法人札幌協働福祉会 ヘルパーステーションたんぽぽ施設長 山下 有美 氏 3) グループディスカッション65分